

家庭問題

カウンセリングルーム

Counseling Room

第107回

「入院中の家族について 担当医師からもう治療の手立てがない と言われた時あなたはどうしますか」

公益社団法人家庭問題情報センター・川島 克巳

首都圏に住むA子さん（五十歳）の父（八十三歳）は末期がんを患い公立大学病院に入院中、このほど主治医から「もう治療の手立てがないので退院してください」と言われ、困惑して当所に駆け込んできた。

A (A子) 父は今年二月末期がんの治療のため入院。所定の治療を終え五月に退院しましたが、新たにがんの転移が見つかり七月に再入院しました。

このほど主治医から「もう治療の手立てがないので退院してください。治療して治る見込みのある患者さんがたくさん待っています。ホスピスに入るか、自宅で療養するか選択してください」と言われました。
カ (カウンセラー) お父さんはどうされたいのですか。

A 父は十年以上前に配偶者を亡くし独り住まいをしており、また一人娘の自分に迷惑をかけたくない思いが強いので、本人から直接入院の継続を主治医に訴えましたが退けられました。

父は、「ホスピスは嫌だ」「自宅で療養する」と言っています。

カ 医師は冷たい言い方をしていますが、本音では余命残り少ない日々を制約だらけの入院生活よりも自由に思い通り生活できる自宅での療養を勧めているのでしょう。

厚生労働省の調査によれば、終末期の療養場所として自宅を希望する人の割合は、

平成十年時の五七・七%に対し平成二十年では六三・三%と、ほぼ三人のうち二人は自宅で最期まで過ごしたいと望んでいます。大学病院は積極的治療を行う場所なので、末期がん患者が最期を過ごす場所としては制約があり過ぎます。首都圏のホスピスは入ろうと思っても待ち人数が多くてすぐには入れないのが現実です。

A 父のためにできることは何でしょうか。一つには、他の医療機関にセカンドオピニオンを求めることが考えられます。

主治医の判断に納得できない・別の医者の意見が欲しい場合、異なる医療機関に治療法の適否、別の治療法の有無等についての意見、すなわち「第二の意見」を求めることができます。これにより病気に対する理解が深まり、また別の治療法が提案された場合は選択肢が増えることとなります。担当医を替えたり、転院する必要はありません。希望する場合は現在の主治医にセカンドオピニオンを求めることを伝え、診療情報提供書等を準備してもらいましょう。

お父さんが行ければいいのですが、もし無理であればA子さん一人で行くよりは信頼できる人と同行してもらおうかというと思います。費用は健康保険適用対象外で、医療機関によって異なりますが、だいたい、三十分二万円程度です。

A 最近、テレビなどで重粒子線・陽子線治

療や免疫療法という言葉を耳にしますが、父にも勧めた方がいいのですか。費用も大変高額と聞きますが。

力 いわゆる先進医療というものです。これらの多くは治療実績が浅く、保険適用されていませんが、特に治療を受けたい希望者が多いものは、厚生労働省によって特別措置として保険診療との併用が認められています。

ただ治療リスクは患者の自己責任で、かつ費用も全額自己負担です。治療を受ける、受けないはお父さん自身の意思を尊重して決めるべきものではないでしょうか。

A なるほど。他にできることはありませんか。

力 二つには、お父さんが平穩に療養生活をおくれるように在宅医療と言いか、お父さんの場合は終末期を迎えられているので看取り体制を早急に作ることです。お父さんが入院されている病院には医療ソーシャルワーカーが常駐していますので、まず相談してください。

訪問医、訪問看護師、薬剤師等の医療関係者が患者の自宅に定期的に訪問して計画的・継続的に医学管理や経過診療を行う体制を整えるために相談に乗ってください。また、自宅のある地域包括支援センターのケアマネジャーとの連携プレーで在宅介護体制についても相談に乗ってください。

ひと月後、A子さんから、セカンドオピニオンの結果を父に伝え、訪問医、訪問看護

師も決まり、介護認定も受け万全の自宅療養体制の中、父は苦しむことなく医師の看取りの下で眠るように旅立ったと報告された。

力 ところで、A子さんは「かかりつけ医」を持っていますか。

A いいえ、何かあったら病院へ行こうと思っているので、あえて持っていない。

力 かかりつけ医は、日本医師会の定義によれば、「なんでも相談できる上、最新の医療情報を熟知して、必要な時には専門医、専門医療機関を紹介でき、身近で頼りになる地域医療、保健、福祉を担う総合的な能力を有する医師」です。キーワードは、「近くにいる、どんな病気でも、二十四時間三百六十五日いつでも」です。

一般病院、特に大病院に紹介状なしで行けば、三時間待たされた挙句、初対面の医師の三分の診察、さらには割増な診察料をとられるのです。また、次回に行くと同様の医師ではなく、これまた初対面の医師の診察を受けるというようなことが日常茶飯事です。

かかりつけ医に行けば、待ち時間が短く上に受付手続は楽ですし、患者の質問には時間を惜しまず納得ゆくまで丁寧に答えてくれますし、患者の病歴、健康状態を把握しているのも、もしもの場合には素早い対応をしてくれます。精密な検査が必要と判断すれば適切な病院を紹介してくれます。



家庭問題カウンセリングルーム

す。また、相談を持ちかければ食事や運動等日頃の健康管理のアドバイスもしてくれるなど病院に比べると使い勝手の良さがたくさんあります。患者自身だけではなく家族についても同様に対応してくれます。

具体的にかかりつけ医を探すときには、地元での口コミを利用するのもいいでしょうし、地域によっては医師会で紹介してくれることもあるようです。

厚生労働省もかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬剤師の普及を重点施策としています。

A子さん、「病気になるったら病院に行く」のではなく、「病気になるたらまずかかりつけ医に行く」ことを強くお勧めします。そのためには、日頃から定期的な健康診断等を通じて医師とのコミュニケーションを図ってください。